



【アーティストサポート】を通して、
アーティストたちの活動をご支援いただき、ありがとうございます。
時や国を超え「生きる力」を与えてくれる文化・芸術に、
引き続きのご支援をお願い申し上げます。

ご支援をいただいた個人ならびに企業・団体の皆さま

<2023年度年間サポート>

F.A Y.A 今井良成 S.U 植原由起子 S.U M.E A.O K.O S.O 河村はるみ K.K
木村美明 M.K 小室秀夫 新貝康司 N.S M.S A.D 土屋涼子 トゥルーラブ真智子
トゥルーラブ真凜 N.N 中島 和 中野和枝 中村尚義 中村美穂 T.H M.H 藤野盾臣
細沼康子 M.H 松尾芳樹 松田 香 真野美千代 三橋祐太 J.M H.M S.Y
TDK株式会社 MEDIHEAL & SEKIDO コンツェルトハウス・ジャパン by 株式会社キタマ
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント 株式会社ロジックアンドエモーション
ライフプラン株式会社 Heart of the Earth株式会社
ナレッジワーカーズインスティテュート株式会社 株式会社RINABO きづきアセット株式会社
株式会社青林堂 日本パデレフスキ協会淡路

(匿名希望 22名)

<舘野泉バースデープロジェクト>

Y.A 阿部将任・登美子 一柳吉子 A.I 大谷恵美子 S.O 小畑裕子 木全恵美子 M.K
黒川智恵美 黒住彰子 齊藤久子 坂井 和 佐々木暁子 菅原佳世子 鈴木早苗 R.T
田邊英利子 中村康江 K.H 羽生賢次 福島晶子 堀田高秀 松田純子 三上美智恵 光永 育
K.M 山家七恵 S.Y 吉岡玲子 吉田和充・淳子 舘野泉ファンクラブ東京 日本セヴラック協会
有限会社ムジカーザ NPO法人Mプロジェクト

(匿名希望 14名)

<ニュークラシックプロジェクト>

浅岡尚子 岩井睦雄 上原啓子 小田島容子 K.K 久保千聖 雲然祥子 小池美喜
篠崎啓史 I.S T.S トゥルーラブ真智子 トゥルーラブ真凜 T.N 長谷部 宏行 秦 勝重
T.H 林 路郎 細沼康子 牧野佳那 松下泰之(マティビ) S.Y

(匿名希望 14名)

2023年9月30日現在 敬称略/匿名希望の方は記載しておりません

ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720

(平日11:00~17:00 年末年始を除く)

アーティストサポートの
詳細はこちらを
ご覧ください。



Serenade
CZECH PHILHARMONIC CHAMBER ORCHESTRA

チェコ・フィルハーモニー 弦楽アンサンブル

名門チェコ・フィルの精鋭たちによる“セレナード”

Czech Philharmonic Chamber Orchestra “Serenade”

2023年11月5日(日) 14:00 開演

サントリーホール

2:00p.m., Sunday, November 5, 2023 at Suntory Hall

主催：ジャパン・アーツ

Program

ドヴォルザーク：我が母の教え給いし歌（弦楽合奏版）

A. Dvořák: Songs My Mother Taught Me

ドヴォルザーク：弦楽セレナード ホ長調 Op.22

A. Dvořák: Serenade for Strings in E major, Op.22

第1楽章：モデラート	1st Mov.: Moderato
第2楽章：テンポ・ディ・ヴァルス	2nd Mov.: Tempo di valse
第3楽章：スケルツォ、ヴィヴァーチェ	3rd Mov.: Scherzo. Vivace
第4楽章：ラルゲット	4th Mov.: Larghetto
第5楽章：フィナーレ、アレグロ・ヴィヴァーチェ	5th Mov.: Finale. Allegro vivace

.....

チャイコフスキー：アンダンテ・カンタービレ（弦楽合奏版）

～ 弦楽四重奏曲第1番 Op.11 より 第2楽章

P.I. Tchaikovsky: Andante Cantabile -2nd Mov. from String Quartet No.1, Op.11

チャイコフスキー：弦楽セレナード ハ長調 Op.48

P.I. Tchaikovsky: Serenade for Strings in C major, Op.48

第1楽章：「ソナティナ形式の小品」	1st Mov.: Pezzo in forma di Sonatina.
アンダンテ・ノン・トロッポーアレグロ・モデラート	Andante non troppo-Allegro moderato
第2楽章：「ワルツ」モデラート、テンポ・ディ・ヴァルス	2nd Mov.: Valse. Moderato. Tempo di Valse
第3楽章：「エレジー」ラルゲット・エレジアール	3rd Mov.: Elegia. Larghetto elegiaco
第4楽章：「ロシアの主題によるフィナーレ」	4th Mov.: Finale. Tema russo.
アンダンテアレグロ・コン・スピリト	Andante-Allegro con spirito

Profile

チェコ・フィルハーモニー弦楽アンサンブル

Czech Philharmonic Chamber Orchestra



© Petra Hajska

固定のメンバーは置かず、チェコ・フィルの全楽団員にその門戸が開かれており、バロックから現代作品までレパートリーによって交代で様々な室内楽のグループが編成されている。

2023/24シーズンには、ユリア・フィッシャーやアンドラーシュ・シフ等との共演が予定されている。

この団体は2018年よりチェコ・フィルハーモニー管弦楽団内の室内楽演奏団体として、活動を開始した。

設立は、「チェコ・フィル伝統の高いレベルを維持するためには、団内で室内楽を演奏することが必要である」という、前首席指揮者の故イルジー・ビエロフラーヴェクの提唱によるものである。

ヤン・フィシエル (ヴァイオリン/アーティスティック・リーダー)

Jan Fišer, Violin / Artistic Leader



© Petra Hajska

幼少時代から注目を集め、ベートーヴェン・フラゲツ国際コンクールをはじめ数々のコンクールで成功を取めた。プラハ・フィルハーモニアのコンサートマスターを経て、2020年よりチェコ・フィルのコンサートマスターを務める。これまでに客演コンサートマスターとして、BBC響、バンベルク響、ザールブリュッケン・カイザー・スラウテルン・ドイツ放送フィル等と共演。ソリストとしても、プラハ・フィルハーモニア、チェコ・ナショナル響をはじめ数多くのオーケストラと共演している。ドイツ、オーストリア、スイス、スペイン、スロヴァキア、イタリア、フランス、アメリカ等でソロ公演を行っている。

ピッツバーグ響コンサートマスター、アンドレス・J・カルデネスに師事。使用楽器はフィドラ財団より貸与されたF.L.ピケ(19世紀初頭フランス)。

Czech Philharmonic Chamber Orchestra

1st Violin

Jan FIŠER / *Artistic Leader*
Magdaléna MAŠLAŇOVÁ
Otakar BARTOŠ
Marie DVORSKÁ
Jiří KUBITA
Lenka MACHOVÁ
Pavel NECHVÍLE
Milan VAVŘÍNEK

2nd Violin

Markéta VOKÁČOVÁ
Václav PRUDIL
Pavel HERAJN
Milena KOLÁŘOVÁ
Marcel KOZÁNEK
Zuzana HÁJKOVÁ
Helena ŠULCOVÁ

Viola

Pavel CIPRYS
Jaroslav PONDĚLÍČEK
Jaroslav KROFT
René VÁCHA
Ondřej MARTINOVSKÝ
Lukáš VALÁŠEK

Cello

Václav PETR
Marek NOVÁK
František HOST
Eduard ŠÍSTEK

Double Bass

Adam HONZÍREK
Petr RIES
Ondřej BALCAR

Technician

Jan PÁVEK
František KUNCL

Tour Manager

Eliška VOLFOVÁ

Program Notes

柴田 克彦 (音楽評論家)
Katsuhiko Shibata

ドヴォルザーク:我が母の教え給いし歌 (弦楽合奏版)

本日前半は、チェコ国民楽派の大家アントニン・ドヴォルザーク(1841-1904)の作品が披露される。
本作は、1880年に書かれた歌曲集「ジブシーの歌」全7曲中の第4曲。原曲は、「老いた母が私に歌を覚えてくれたとき、目には涙を浮かべていた。その歌をわが子に教えるとき、私もまた涙を流す」といった歌詞と、そうした切なさや優しさが込められた旋律をもっている。この曲は、ヴァイオリン独奏をはじめ様々な形態で愛奏されており、ここでは弦楽合奏のしなやかな響きがしみじみとした風情を醸し出す。

ドヴォルザーク:弦楽セレナード ホ長調 Op.22

ドヴォルザークの比較的初期の作品。30歳を過ぎても芽が出なかった彼だが、1875年、「才能があつて、貧しい芸術家」にオーストリア政府が与える国家奨学金の受賞者に選ばれて、状況は一変。当時の年収の2倍以上にあたる奨学金を5年連続授与されて、心置きなく作曲に励むことになる。しかも審査員ブラームスに認められ、この巨匠に紹介された出版業者ジムロックの依頼による「スラヴ舞曲集」が出世作となった。

本作は、奨学金の授与が決まった直後に、大きな喜びの中で作曲された。ドヴォルザークがまず意識したのは、恩人ブラームスの2曲のセレナード(セレナード自体は、大まかに言えば「夕べに演奏される音楽」)であり、弦楽器のみの編成や歌に溢れた曲調は、モーツァルトのセレナード「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」の延長線上にある。そして幸福感の中に漂う地元ボヘミア音楽流の哀感がドヴォルザークならではの魅力を形成し、柔らかなサウンドや、同じ旋律を追いかける「カノン」の多用も特徴をなしている。また、チャイコフスキーのセレナードと同じく、メヌエットにあたる楽章(第2楽章)にはワルツが採用されている。終楽章の最後に第1楽章の冒頭主題が回想される作りも同様だ。だが、本作の方がチャイコフスキー作品より5年早く書かれている。

- 第1楽章: モデラート。なだらかな田園風の主部に、付点リズムが特徴的な中間部が挟まれる。
- 第2楽章: テンポ・ディ・ヴァルス。憂いを帯びた短調のワルツに、抒情的な中間部が挟まれる。
- 第3楽章: スケルツォ、ヴィヴァーチェ。2拍子の軽快なスケルツォに、哀感漂う中間部が挟まれる。
- 第4楽章: ラルゲット。美しい緩徐楽章。やはり憂いを湛えた主部に、テンポを速めた中間部が挟まれる。
- 第5楽章: フィナーレ、アレグロ・ヴィヴァーチェ。生気に溢れた主題を軸に運ばれる、ロンド風の終曲。

チャイコフスキー:アンダンテ・カンタービレ (弦楽合奏版) ～ 弦楽四重奏曲第1番 Op.11より 第2楽章

後半は、ロシア最大の巨匠ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840-93)の作品。
本作は元々、創作活動初期の1871年に、収入目当ての自作演奏会のために書かれた弦楽四重奏曲第1番の第2楽章にあたる。しかしながらこの楽章は、単独の小品として高い人気を獲得。「ゆったりと歌うように」を意味する速度・発想用語がそのままタイトルとして定着し、様々な形態で演奏されるようになった。なお、1876年に演奏された際、臨席した文豪トルストイが涙を流し、チャイコフスキーをいたく感激させたとの逸話でも知られている。曲は、2つの部分が交互に登場する、感傷的でしみじみとした音楽。最初の旋律は、ウクライナのカメンカ村の妹の家で、ペチカを作る職人が歌っていた民謡に拠るといわれている。

チャイコフスキー:弦楽セレナード ハ長調 Op.48

チャイコフスキーが、創作活動中期の1880年に、妹の嫁ぎ先であるウクライナのカメンカで書いた、ロマン派のセレナードの代表曲。そもそもチャイコフスキーは、モーツァルトをいたく敬愛していた。そんな彼が「モーツァルトへの愛情による内面的な衝動」(手紙より)によって作曲したのがこの曲。「弦楽のための小交響曲」風の4楽章構成による「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」に根ざした作品でもある。また「内面的な衝動」は、同時期に依頼されて作曲していた外面的な序曲「1812年」の反動ともいわれている。それらが相まって本作は一気に完成され、本人も「心のこもった作品です。本当の価値があります」と手紙に記すほどの自信作となった。

曲は、古典的な形式美とメランコリックな情感、西欧的洗練味とロシア情緒が渾然一体となった傑作。作曲家自身、弦楽器の人数をフル・オーケストラ並みに求めたというボリューム感と、流麗さや歯切れよさを併せ持つ、弦楽合奏の醍醐味に溢れた音楽だ。各楽章が単独でも演奏され、作曲家十八番の第2楽章「ワルツ」は特に有名。重厚な和音で始まる第1楽章冒頭部も、かつてCMで頻繁に流れていた。

- 第1楽章: 「ソナティナ形式の小品」。アンダンテ・ノン・トロppo — アレグロ・モデラート。ソナティナ(ソナチネ)は「小さなソナタ」のこと。荘重な序奏の後、流麗な第1主題と軽やかな第2主題を軸に進行。最後に序奏が再現される。
- 第2楽章: 「ワルツ」。モデラート、テンポ・ディ・ヴァルス。「やさしく、とても優雅に」と付記された主題を軸に、フランス風の優美さとロシア的な哀感を併せ持つワルツが展開される。
- 第3楽章: 「エレジー」。ラルゲット・エレジアーコ。深い哀愁を湛えた「悲歌」。三部形式だが、甘美で切ない旋律をもとに感情を高める中間部が、実質的な主部となっている。
- 第4楽章: 「ロシアの主題によるフィナーレ」。アンダンテ — アレグロ・コン・スピーリト。穏やかな序奏の旋律と、快活な第1主題はいずれもロシア民謡。これに優雅な第2主題が加わって盛り上がり、終結の前に第1楽章の序奏が再現される。